

ノートに眠った願いごと

2007(平成19)年9月27日鑑賞〈ソニー・ピクチャーズ試写室〉

★★★★



監督＝キム・デスン／出演＝ユ・ジテ／キム・ジス／オム・ジウォン／チェ・ジョンウォン／パク・スンテ／イム・ジョンユン／チョン・ジノ（ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給／2006年韓国映画／108分）

……行楽の秋が到来したが、それは韓国も同じ。「ノート」に書かれた新婚旅行計画の旅はすばらしい景勝地ばかり……。ところが、今その景勝地を巡るのはカップルではなく、1人の男と1人の女。それは一体なぜ……。そんなちょっとした謎解きをしながら、美しい景色をたっぷり楽しもう。

日本では考えられない手抜き工事……。？

2005年11月に発覚した耐震強度偽装問題は日本中を震撼させたが、そうだからといって、現実にはビルやマンションが崩壊したという事例はない。しかし、漢江にかかる聖水大橋が手抜き工事のため1994年10月21日突然崩壊し、橋を通行中の乗用車やスクールバスが巻き込まれ、32人が死亡したという「前科」をもつ、お隣の国韓国では……？

この映画のヒロイン、ソ・ミンジュ（キム・ジス）が偶然巻き込まれたデパートの崩壊事故の様子は、日本では考えられないウソみたいな光景だが、実はこれは1995年6月29日午後5時55分にホントに発生したもの。すなわち、ソウル南部に位置する三豊百貨店の5階建てのビルの半分が崩壊し、死者502人、負傷者937人、行方不明者5人を出したという大惨事だ。1989年に開店したこのデパートは、もともと地上4階建てのオフィス・ビルを建てる計画で工事が始められたが、建設途中で地上5階建てのデパートに変更されたり、さらにいくつかの要因が重なって建物の強度が弱まっていたことが、崩壊の原因とのこと。

弁護士か検事か……？ 司法修習生は必見……？

現在大ヒットしている『HERO』（07年）におけるキムタクの職業は検事だが、日本では近時、裁判官、検察官、弁護士になるための司法試験制度が大きく変化しているから、受験生は大変。韓国の司法試験制度や合格した後の司法修習制度がどうなっているのか私は全く知らないが、この映画の主人公チェ・ヒョヌ（ユ・ジテ）は司法研修院生というから、私たち法曹関係者はそれだけで馴染みが深いもの。

この映画で観る限り、検察修習中に修習生の身分で被疑者の取調べ修習をやるのは、韓国も日本と同じ。しかし、恋人ミンジュとのデートの準備に忙しいため取調べをホドホドに流していたヒョヌ（？）に対して、指導検事から「今日中に尋問書を提出せよ」との厳しい要求が。したがって、ヒョヌにとっては検察修習はあまり楽しいものでなかったようで、ミンジュの父親（チェ・ジョンウォン）から「進路をどうするか」と聞かれると、「どんな相談でも親しく聞くことができる弁護士になります」と答えていた。ところが、デパート崩壊事故で恋人のミンジュを失った後、彼は一転して検事の道に。さて、その進路変更は一体なぜ……？

この点を考えるだけでも、現在の司法試験受験生や司法修習生諸君はこの映画は必見！

『ワールド・トレード・センター』のシーン再現……？

2001年の9・11同時多発テロ発生後、被害者救助のために現場に入った2人の実在の警察官ジョンとウィルを主人公とした映画が、オリバー・ストーン監督の『ワールド・トレード・センター』（06年）。この映画は、瓦礫の下敷きとなった状態で生き延び、遂に救助されることになったジョンとウィル2人の姿とその家族の姿を通して、あの9・11の悲劇とアメリカ国民の次への希望を描こうとするもの（『シネマルーム12』35頁参照）だった。しかして、サンブンデパートのB1の喫茶店内にいたため、瓦礫の下敷きとなったミンジュと喫茶店のウェイトレスをしていた女性ユン・セジン（オム・ジウォン）の2人も、このジョンとウィルと同じような状態に……。

上から崩壊してきたビルのB1にいたのだから、コンクリートの塊の下敷きとなって即死する人が多い中、たまたまミンジュとセジンは瓦礫の隙間に入りこんだため即死を免れたのはラッキー。しかし、ミンジュはケガをしたままほとんど身動きがとれ

ない状態だったから、救助が先か衰弱が先かという時間勝負……。もっとも、こんな過酷な状況の中、瓦礫の山で隔たれながらもお隣サンとして2人が話し合える状況だったことが互いの心の支えになったのは当然。したがって、セジンが生き残ることができたのはいわばお姉さんミンジュのおかげだが、セジンの心の痛手が大きかったのも当然。しかして、この2人が瓦礫によって隔てられた空間の中で話し合ったことは一体ナニ……。？ それが、この映画の大きなポイントに……。

日韓「ノート」比較……。？

この映画のハングル文字の原題は私には読みとれないが、英語では『Traces of Love』とされているから、『ノートに眠った願いごと』という邦題とは全く視点が違うもの。私見によれば、原題は物語の本質に着目してつけられたのに対し、邦題は物語の現象に着目してつけられたもの……？

また、少しうがった考え方をすれば、日本で9月29日から公開され、大ヒットが予想される『クローズド・ノート』(07年)は、前の住人竹内結子が残した1冊のノート(日記)を、新入居者の沢尻エリカがつい読んでしまうことから生まれてくるストーリーだが、韓国映画の『ノートに眠った願いごと』もそれとよく似た感覚のもの……。？ もっとも、ミンジュが残したノートを読むのはミンジュの恋人ヒョヌ1人だけだが、なぜかそのノートに書かれている韓国の景勝地を旅するヒョヌと再三鉢合わせするのがセジン。

さて、それは一体ナゼ……。？ この映画を楽しむためにはネタばらしをしないことが大切だから、それはここでは書かないが、きっとあなたも「なるほど」と感心しながら、ミンジュが残したノートに注目するはず……。？

日本人の知らない景勝地ばかり……。？

韓国旅行に何度も行ったことがある人でも、とくに男性は①釜山^{プサン}、②濟州島^{チェジュ}、③ソウルの3都市には何度も行ったものの、この映画に登場するような美しい景勝地はほとんど知らないのでは……。？

映画を観ているだけではその位置関係や距離感は全然わからないが、プレスシートにある地図とミンジュのノートにある旅行日程を読めば、よりトータルとしてその旅の楽しさと景勝地の美しさが印象に残るはず。しかし6日間でこれだけ韓国縦断の旅

ができるのだから、やはり韓国は日本に比べて狭いこともあわせて実感。

9月23日に観た『夜の上海』（07年）では、はじめて出会った2人が長い長い一夜を過ごしたスポットをめぐるツアーが企画されていたが、旅慣れない日本人がヒヨヌやセジンと同じように、ミンジュが企画した新婚旅行のコースを6日間で回るのは到底ムリ。しかし、機会があればその2、3カ所でも是非観光してみたいもの……。

半分は、観光ガイドとして……？

この映画のストーリー構成上のポイントは、瓦礫の塊の中でのミンジュとセジンの会話と、旅先で再三起きるヒヨヌとセジンとの鉢合わせ。つまり、「さて、それはなぜでしょう……？」

という問題提起をしつつ、映画の観客にミンジュのノートに書かれていた新婚旅行計画にもとづく美しい景勝地めぐりをしてもらうのがこの映画の狙い……？ したがって、この映画の半分は旅行映画、観光映画だから、この映画は観光ガイドとして最適……？ そこで大切なのはカメラ撮影や照明だから、それらの撮影テクニックにも心を配りながら秋の韓国の美しい景色をたっぷりと楽しみたいものだ。

そうすれば、瓦礫の塊の中で死んでいったミンジュも、きっと喜んでくれると思うのだが……。



『ノートに眠った願いごと』ディレクターズ・カット版 DVD レンタル中
発売・販売：ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

2007(平成19)年10月4日記